

ふるい 初代文集 霊の賜物

わたしは、深い信仰と苦悶の叫びをあげて、神に嘆願している人々を見た。彼らの顔は青ざめ、深い憂いの色を帯びていて、彼らの内的苦闘を表していた。その表情には、堅忍不拔（→つらいことに負けず、がまん強く心を動かさないこと）の精神と非常な熱心さとがあらわれていた。彼らの額からは、大きな汗のしずくが落ちた。彼らの顔には、時々、神の嘉納（→進言などをほめて聞き入れること、ほめ喜んで受け取ること）のしるしが輝くのであったが、また、元の同じ厳粛で熱心と憂慮に満ちた表情にもどるのであった。

悪天使たちは、彼らを取り囲み、彼らを闇の中に閉じこめて、イエスを見えないようにしていた。それは、彼らが回りの暗黒に目を向けて、神に信頼せず、神に対してつぶやくようになるためであった。彼らの唯一の安全な方法は、目を上に向けていることであった。神の天使たちは、神の民を守っていた。そして、悪天使たちの悪影響がこれらの熱心な人々の回りに迫ってくる時に、天使たちは、絶えず彼らの翼を動かして、濃い暗黒を追い払っていた。

祈っている人々が、彼らの熱心な叫びをつづけていると、時々、イエスからの光が彼らに輝き、彼らの心を励まし、彼らの顔を輝かせた。ある人々は、この苦闘と祈りに加わらないのをわたしは見た。彼らは、不注意で無関心なように見えた。彼らは、回りの暗黒に抵抗しようとしなかったので、暗黒が厚い雲のように彼らを囲んだ。神の天使たちは、この人々を去って、熱心に祈っている人々を助けに行った。悪天使たちに抵抗するために全力をあげて闘い、忍耐強く神を呼び求めて努力しているすべての者を助けるために、神の天使たちが急いでいくのをわたしは見た。しかし、神の天使たちは、自らを助けようと努力しない人々を去った。そして、わたしは彼らを見失ってしまった。

わたしは、わたしが見たふるいの意味をたずねた。そして、それは、ラオデキヤ教会への真の証人の勧告が生じさせた率直なあかしによるものであることを、わたしは示された。これは、受ける者の心を動かして、高く旗をかかげさせ、率直な真理を語らせる。ある者は、この率直なあかしを聞くにたえない。彼らは、それに反対して立ち上がる。そして、これが、神の民の間にふるいが行われる原因となるのである。

わたしは、真の証人のあかしが、その半分も注意されないのを見た。教会の運命がかかっている厳粛なあかしが全く無視されないとしても、軽視されている。このあかしは、深い悔い改めを呼び起こすべきものである。それを真に受け入れるすべての者は、それに従って清められるのである。

天使は、「聞きなさい」と言った。やがて、わたしは、多くの楽器が、完全に調和して、美しい音楽をかなでているのを聞いた。それは、わたしがこれまでに聞いたこともない美しい音楽で、恵みと憐れみに満ち、高尚で聖なる喜びにあふれていた。それは、わたしの全身を感動に震わせた。

天使は「見なさい」と言った。すると、わたしは前に大いにふるわれるのを見たその一団の人々に注目した。わたしは、前に涙を流し、苦悶しているのを見たその人々を見せられた。彼らの回りの守護の天使は、2倍に増やされた。そして人々は、頭から足まで、武具をまとっていた。彼らは、兵卒の隊のように、規律正しく動いた。彼らの顔は、彼らの耐えてきた激しい争闘と経てきた苦悶とを表していた。しかし、彼らの容貌は、激しい内的苦悶のあとがあったとはいえ、今は、天の光と栄光に輝いていた。彼らは、勝利を得た。そして、彼らは、深い感謝にあふれ、聖なる喜びにみたされていたのである。

この一団の数は減少していた。ある者は、ふるい落とされて、途中に残された。勝利と救いを尊んでそのために忍耐強く嘆願し苦悶した人々に加わらなかった不注意で無関心な人々は、それにあずからず、暗黒のうちに取りのこされた。そして、彼らの場所は、真理を信じて隊列に加わる人々によって、直ちに補充された。悪天使たちは、なお彼らの回りにつめ寄ったが、彼らに打ち勝つ力はなかった。

わたしは、武具をまとった人々が力強く真理を語るのを聞いた。それは効果的であった。多くの人々が縛られていた。夫に縛られていた妻もあれば、親に縛られていた子供もあった。真理を聞くことを妨害されていた心の正しい人々は、今、熱心に真理を自分たちのものにした。親族を恐れる気持ちは全くな

くなった。そして、真理だけが彼らの前で高められたのである。彼らは、飢え渴くように真理を求めていた。真理は、生命よりも愛すべく尊いものであった。わたしは、何がこのような大きな変化をもたらしたのかをたずねた。「それは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天使の大きいなる叫びである」と天使は言った。

大きいなる力が、これらの選ばれた人々と共にあった。天使は、「見なさい」と言った。わたしの注意は、悪人たち、すなわち信じない者たちに向けられた。彼らは騒ぎ立っていた。神の民の熱心と力とが彼らを刺激し怒らせた。どこを向いても、混乱、また混乱であった。わたしは、神の光と力を持った一団に対して処置がとられるのを見た。暗黒は、彼らの回りで深まった。しかし、彼らは、堅く立って、神に嘉せられ（→よみせられ：よしとされ、ほめられ）、神に信頼していた。わたしは、彼らが困惑するのを見た。次に、わたしは、彼らが、熱心に神に叫び求めるのを聞いた。彼らは、昼も夜も叫びつづけた。「ああ、神よ、あなたのみ心が行われますように。もしあなたのみ名の栄光のためであるならば、あなたの民のために逃れの道を備えてください。われわれのまわりの異教徒から、われわれを助け出してください。彼らは、われわれを死に定めました。しかし、あなたの腕は、救いをもたらすことがおできになります」。わたしが思い出すことができる言葉は、これだけである。彼らは、みな、自分たちの無価値なことを深く悟って、神のみこころに対する絶対の服従をあらわしていた。しかし、ヤコブのように、すべての者が、ひとりの例外もなく、熱心に嘆願して、救いを得るために格闘していた。

彼らが熱心な叫びをあげ始めて間もなく、天使たちは、彼らに同情して、彼らの救済に出かけようと望んだ。しかし、背の高い、指揮をとっていた天使は、彼らに行くことを許さなかった。「神のみ心がまだ成就していない。彼らは杯を飲まなければならない。彼らは、バプテスマを受けなければならない」と（その）天使は言った。

間もなく、わたしは、天地を震動させる神のみ声を聞いた。大きな地震が起こった。建物はいたるところで倒れた。その時わたしは、大きな、音楽のような、はっきりした勝利の叫びを聞いた。わたしは、ついさきほどまで困惑と捕われの中にあつた一団の人々を見た。彼らの束縛は解かれた。彼らの上には栄光の光が輝いていた。その時彼らは、なんと美しく見えたことだろう。心労と苦労のあとはすべて消え、すべての者の顔に健康と美がみなぎっていた。彼らの回りの敵や異教徒は、死人のように横たわっていた。彼らは、救われた聖なる人々の上に輝いた光に耐えられなかったのである。

イエスが天の雲にのって来られ、忠実で試みを経た一団の人々がまたたく間に一瞬にして栄光から栄光へと変えられるまで、この光と栄光とは、彼らの上にとどまった。そして、墓は開かれ、聖徒たちが、不死をまとして、「死と墓に対する勝利」を叫んで出てきた。彼らは、生きている聖徒たちと共に天に携えられて、空中で主と会った。

そして、すべての死ぬことのない者は、美しい音楽のような栄光と勝利の叫び声をあげたのである。

（初代文集 霊の賜物 ふるい）

率直な証に心をとめ、贖いの日の条件を果たして後、ふるい（震い）の経験を経て、天の聖所を仰ぐ人々に後の雨、聖霊の注ぎが与えられます。裁きの時に、聖所の清め—贖いの日の条件を果たすときに、神はご自分の約束を果たされるのです。（神は）後の雨の祝福をもってご自分の民に答えられるのです。

（サンライズ・ミニストリー「聖所からの光」下巻 P.91）